

冬を楽しむ～スノーワンダーランド～

雪が降ると、校庭へとび出して行き、元気に遊ぶ子どもたちの姿が生き生きしています。校地の安全な場所を確保し、「スノーワンダーランド」などと名前を付けて活動を始めると、楽しさが増してきます。

また、校地を活用することで、休み時間も活動できたり、他の学年を誘って一緒に遊んだりするなど、活動の幅が広がります。自分たちが作った雪の遊びが楽しんでもらえることで、子どもたちの意欲が高まり、遊びのよさを感じるきっかけにもなります。



ここが
ポイント

子どもたちの思考の流れに沿って

校庭の一角や教材園など、安全で雪遊びが十分に行える場所を設定し、子どもたちと雪遊びを楽しめます。試し遊びをしてから、「どんな遊びができるか。」「用意するものは何か。」など、具体的な話合いをし、活動の計画を立てます。

みんなで力を合わせて、
ひみつきちをつくったよ。

まずは、子どもの思いや願いから楽しい雪遊びができるように、活動に広がりをもたせます。

「雪合戦がしたい。」「雪だるまを作りたい。」

「かまくらの秘密基地を作りたい。」「滑り台を作って競争したい。」など、思い思いの遊びを提案し、試行錯誤しながら思いを実現していく活動にしたいものです。



ここが
ポイント

いつでも遊べる「スノーワンダーランド」

玄関から外への移動距離が長いと、低学年の子どもたちは身支度をして外に出るだけで活動時間が終わってしまうことがあります。雪遊びの場所は、玄関から近いところや校舎から出入りしやすいところで、繰り返し活動できる場所がおすすめです。安全面や校舎に雪が入らないようにするなどの対策をしっかり行い、学校内で理解や協力が得られるように配慮するのも、気持ちよく活動ができるコツです。

Active

幼稚園や保育園の園児と一年を通じて交流しているときなど、子どもたちが作った自慢の「スノー・ワンダーランド」へご招待します。「幼稚園のお友達を楽しませるにはどうすればよいか。」という新たな視点で自分たちの雪遊びを見つめ直すことで、相手意識が生まれ、遊び場や遊びのルールを工夫する必然性が出てきます。



また、入学してから小学校のことを優しく教えてくれた6年生と一緒に楽しむという目的が生まれれば、意欲も高まり、今までの感謝の気持ちも芽生えてくることでしょう。

このように、自分たちが楽しむ場として展開してきた「スノー・ワンダーランド」を誰かを楽しませるためにという目的に発展させることで、子どもたちの活動がより意識的・意図的なものに変わります。

気付き！

『ゆき はっけんカード』に発見したことを毎時間かいていきます。子どもたちに活動の中で、「何をしているの？」「すごいね。」「そんな発見をしたんだね。」と価値付けていくことで、活動の関わりの中から「はっけん」を意識していきます。

「雪にはこんな面白さがあったんだ。」「ルールを考えると、もっと楽しめるんだ。」などカードにかきためていき、地図上に貼っていったり、掲示板でお知らせしたりすることで、遊びの楽しさや冬の自然の不思議さや面白さに少しづつ気付いていけるようにすると、雪のよさや遊びの楽しさを実感できるようになります。

また、『ゆき はっけんカード』には、見る、触る、聞くなど、諸感覚を使って感じたことや気付いたことを表現できるように、マークなどをつけておくと、子どもたちが様々な視点で冬の自然のよさを感じ取れるようになります。

このようなカードを活用し、雪遊びの情報交換や情報の共有をし、友達に知らせることでお互いのよさを価値付けることができるようになります。

